

# 急性冠症候群(ACS)における高感度トロポニンI測定の有用性について

○上原幸城<sup>1)</sup> 柴田剛徳<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>宮崎市郡医師会病院 生理検査室    <sup>2)</sup>宮崎市郡医師会病院 循環器内科科兼心臓病センター

## 【背景】

心臓トロポニンIとTは、心筋障害の指標として非常に感受性が高い。特に従来のトロポニン測定系に比べ、高感度トロポニン測定系は低値でも測定感度が高く、より臨床診断において有意性が高い可能性がある。

## 【目的】

PCIを施行したACS患者の高感度トロポニンI(hs-cTnI)を測定し、有用性について検討した。

## 【対象】

2010年4月～8月までの間で、ACS患者で緊急PCIを必要とした連続59名を対象とした。

## 【方法】

入院時にトロポニンT(cTnT) (全血)測定と、高感度トロポニンI(hs-cTnI) (血清)を同時に測定した。また、コントロール群として、同時期の労作性狭心症 (EAP) 患者25名のカテーテル治療前のcTnTとhs-cTnIも測定した。

## 【結果】

ACS病変 (+) 59例のうち、cTnTとhs-cTnIの

一致率55.9%で、残りはすべてcTnT (-)、hs-cTnI (+)であった。一方、EAP患者25例での一致率は、88%で、一致しなかった残りの3例はcTnT (-)、hs-cTnI (+)であった。また、ACS症例の中で、発症から3時間以内、以後の陽性率は、それぞれcTnT: 5.3%、hs-cTnI: 89.5%、cTnT: 65.0%、hs-cTnI: 90.0%とACS発症からの時間に関係なくhs-cTnIの方が陽性率が高かった。

## 【結語】

高感度トロポニンI測定は、従来型トロポニンT測定に比べ、発症からの時間に関係なく、ACSの診断感度を向上させるのに有用である。

連絡先 Tel 0985-24-9064 (直通)  
0985-24-9119 (内線 2122)